

野新聞に掲載いたしました。内容は「建設業進化論」をテーマ
術向上や環境整備を訴求し、栃木県の建設業のイメージアップ
つの切り口が、どのような考えから導き出されたのか、ここに

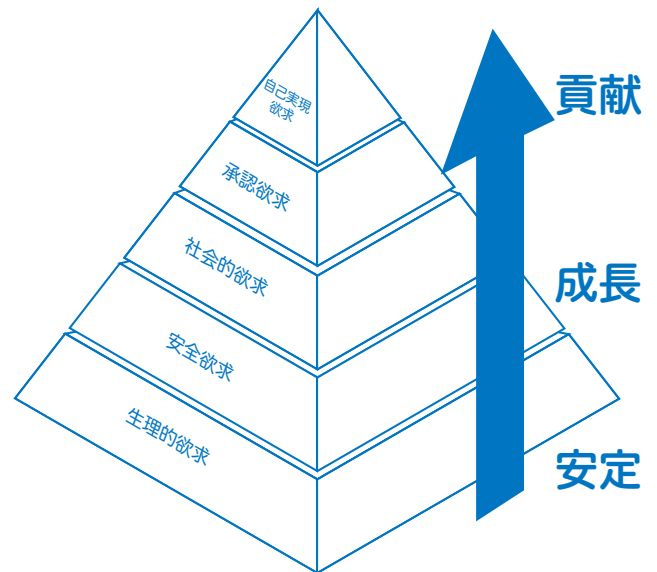


層別の切り口

3つの視点で考える

建設業で働くことを呼びかける場合、「地図に残る仕事」「人びとのために役立つ」といった表現は、どこまで刺さるでしょうか。大きな夢や社会貢献を志す人には共感を高める一方、生活を第一に考える人や、キャリアステップを描く人には、響きづらいかもしれません。

そこで、多様な人びとの興味に即して建設業をアピールできるよう、マズローの欲求段階説に紐づけて「安定」「成長」「貢献」の3つの視点で考えたいと思いました。そしてそれは、求人目的だけではなく、私たち自身の働き方を見直す意味からも大切な視点だと思います。



活動スローガン

TOCHIKEN'S THEORY OF EVOLUTION

建設業進化論

「より良くなろう」の合言葉として

前述の考え方をもとに、「建設業進化論」というスローガンを考えました。現状を変えずに人びとの意識を変えようとするのではなく、今を見つめ、未来に向かって、もっと進化していこうとすること。そうした私たちの姿勢を象徴する合言葉にしたいと思いました。

建設業は次のステージに向かうのだ、それを私たちが自ら実践していくのだ…という想い。人びとに向けたメッセージであると同時に、私たち自身への誓いの言葉でもあります。この言葉とともに、力強く前に進んでいきたいと思えます。